

平成25年度

(第2/3回)

(集団研修)

農民主導による普及手法 (B)

実施要領

平成26年1月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

目 次

1. 案件基本情報	1
2. 案件の背景・目的	1
3. 上位目標	2
4. 案件目標	2
5. 単元目標	2
6. 研修成果品	2
7. 研修員参加資格要件	3
8. 研修実施体制	3
9. 研修の評価	4
10. 研修付帯プログラム	5
11. 主な宿泊場所	6
12. その他	6

参考資料

- 付表－1 研修員関連情報
- 付表－2 コースカリキュラム（案）
- 付表－3 コース日程（案）
- 付表－4 年度別受入実績表

1. 案件基本情報

(1) 案件名

和文：(集団研修) 農民主導による普及手法 (B)

英文：Group Training Program on “Farmer-led Extension Method(B)

(2) 受入期間

平成 26 年 1 月 14 日 (火) ～ 2 月 13 日 (木)

(3) 技術研修期間

平成 25 年 1 月 20 日 (月) ～ 2 月 12 日 (水)

(4) 定員、割当国

定 員：13 名 (受入数 13 名・うち C/P 枠 1 名)

割当国：ベナン(2)、エチオピア (2)、ギニア、ケニア、コソボ、モザンビーク、
ナイジェリア (2)、タンザニア、ザンビア(2)

※ナイジェリア 1 名は C/P 枠

(5) 研修類型：人材育成普及型

(6) 使用言語：英語

2. 案件の背景・目的

普及員の少なさや施設・設備の不足は、途上国における農業普及の課題として常にあげられる。しかしながら、財政難や民営化といった政策的理由のため、これらを充足するために新たな財源や人材を確保することは現実として難しい。このため、普及員が農家を訪問し指導する従来のアプローチには限界がある。農民主導による普及は、このような従来の普及が抱える課題に対する解決策のひとつとなり。また、同時に、農民主導による普及は、営農の多様性や普及の平等性に良い影響を及ぼすこともできる。

農民主導による普及においては、普及員の態度も変わらなければならない。普及員は“教師”というより、むしろ研修の機会を提供するプロモーターであったり、農家を

動員するオルガナイザーであったり、試験の方法や科学的知見を伝授する控えめなアドバイザーであることが求められる。本プログラムでは、研修員は、科学的な考え方と農村開発的な考え方を学びながら、実際のカリキュラムを作成することで、農民主導の普及を計画し運営できるようになることとあわせ、貧困の中にあった時代から日本の食糧生産基地になった十勝の発展のプロセスを学ぶことで、健全な農村振興に向けた普及内容を設定できるようにしている。

3. 上位目標

各国において農民主導による普及を立案、実施できる普及員の数が増加する。

4. 案件目標

帰国した研修員によって、農民主導による普及計画が行われる。

5. 単元目標

- (1) 農民主導による普及活動で用いるカリキュラムを作成できる。
- (2) 基礎科学を学び、応用科学との関係が説明できる。
- (3) 地域開発における農業・畜産の意義について説明できる。
- (4) 帰国後の農民主導による普及活動の計画を纏めた活動計画が作成される。

6. 研修成果品

- (1) 本邦研修実施前

「初期報告書 (Inception Report)」の作成

研修の主題にかかる研修員および所属組織の課題やそれに対する現在の組織としての対策・枠組みをまとめ、本邦でのコース開始時に報告する。

- (2) 本邦研修終了時

「中間報告書 (Interim Report)」の作成

研修で学んだ知識や技術等を基に単元目標 (4) にかかる活動計画 (案) を作成し、コース終盤に発表する。

(3) 帰国後の事後活動

「最終報告書 (Final Report)」の作成

研修員は帰国後、中間報告書に書かれた活動計画 (案) を所属組織に報告、関係者と共有のうえ、最終的な活動計画をまとめ、帰国後 3 ヶ月以内に JICA 北海道 (帯広) に提出する。JICA 北海道 (帯広) は同計画書を関係者と共有のうえ、次年度以降に実施される研修に内容をフィードバックし、必要に応じフォローアップを検討する。

7. 研修員参加資格要件

(1) 募集要項記載条件

- ア. 農業指導者、普及員等、自ら普及活動計画を立案し、実施促進できる立場にある者
- イ. 当該分野で 3 年以上の経験を有する者
- ウ. 年齢が 45 歳未満の者

(2) 各案件共通資格要件

- ア. 所定の手続きにより割当国政府から推薦されること
- イ. 大学卒業あるいは同等の学力を有すること
- ウ. TOEFL iBT 72 点 (CBT 200 点 / PBT 533 点) 以上に相当する英語能力を有すること
- エ. 心身ともに健康なこと
- オ. 軍に属していないこと

8. 研修実施体制

本案件は、コースリーダーである帯広畜産大学の門平睦代教授の助言のもと、独立行政法人国際協力機構北海道国際センター (帯広) が研修コースを計画し、関係諸機関の協力を

より実施・運営する。技術研修期間中は、JICA 登録の研修監理員を配置する。具体的業務は次のとおり。

JICA 北海道（帯広）

- ア) 実施計画書作成（案件目標、研修期間等）
- イ) テキスト、資料等の作成（翻訳・印刷等）
- ウ) 実施予算の執行管理
- エ) 通訳・翻訳（研修監理員による対応）
- オ) 評価 等

帯広畜産大学

- ア) 日程表の調整・作成
- イ) 講師、視察先等への連絡・確認
- ウ) テキスト・資料等の取り付け
- エ) 研修員に対する技術レベルの把握及び技術的指導

9. 研修の評価

(1) 評価の目的

案件目標に基づき、研修成果の測定・分析を通じてコース終了時に当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本案件の質的改善を図る。

(2) 評価の方法

- ア) コースリーダー等による案件目標の達成度把握
- イ) 研修員が提出する質問票による評価
- ウ) JICA による評価

(3) 評価会

研修終了時に質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 反省会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA 北海道（帯広）、コースリーダー、講師が参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度以降のコース改善に向けて対応方針を検討する。

10. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィング

来日直後に北海道国際センター（帯広）で実施する。JICA 業務およびコース概要説明、研修員登録、旅券・査証の有効期間の確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

(2) ジェネラルオリエンテーション

日本の政治・行政、経済、教育などを紹介する。

(3) 日本語講習

研修員の日常生活および国際交流のため、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として 7.5 時間の日本語講習を実施する。

付帯プログラム日程（予定）

日 程	内 容
1 月 15 日(水)	ブリーフィング ジェネラルオリエンテーション 日本語研修
16 日(木)	ブリーフィング ジェネラルオリエンテーション 日本語研修
17 日(金)	日本語研修

11. 主な宿泊場所

北海道国際センター（帯広）

所在地：〒080-2470 北海道帯広市西 20 条南 6 丁目 1 番地 2

Tel (0155) 35-2001 Fax (0155) 35-2213

12. その他

(1) 修了証書

研修を修了した研修員に JICA から修了証書を授与する。

(2) 研修員の待遇

ア) 入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修査証を取得し、滞在中は日本国法規の適用を受ける。

イ) 滞在費

JICA 規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

(3) 国際理解教育

国際理解教育の支援のため、本コースに地域の小中学校の生徒や住民との相互理解のためのプログラムが一部含まれている。

付表－2

平成25年度(集団研修)「農民主導による普及手法(B)」カリキュラム表

案件目標: 帰国した研修員により、農民主導による普及が行われる。

単位: 日

単元目標1: 農民主導による普及で用いるカリキュラムを作成出来る。						
科目	講義	実習	視察	討論	担当	講義内容
コースオリエンテーション	0.5				帯広畜産大学 教授 門平睦代	農民主導による普及手法を学ぶ本研修コースの研修目的および個々のプログラム内容を紹介します。カリキュラム作成までのスケジュールを説明する。
帯広百年記念館			0.5		水戸部洋二	十勝の歴史・産業・自然を紹介する常設展示の視察を通じて、研修場所である十勝の農業、産業の発展過程を学ぶ。
帯広農業高等学校の歴史			0.5	0.5	水戸部洋二 飛谷淳一、織井恒	日本における農業高等学校の制度を紹介し、帯広農業高等学校の歴史に触れ、十勝・北海道地域におい同校が果たしてきた役割を説明する。また、現在実施されている教育カリキュラムもあわせて紹介する。
農民学校	0.5				帯広畜産大学 教授 門平睦代	農民主導による普及の原点とも言える農民学校(Farmer School)とは何なのか、海外での事例を使いながら、農民学校の目的、運営方法などについて講義する。
農業教育カリキュラム	1.0				水戸部洋二 三浦たみ子	農業教育の基盤となるカリキュラムの作成について、日本の農業教育実践を紹介しながら作成までの過程を講義する。
日本における農業協同組合組織と役割	0.5				帯広畜産大学 准教授 仙北谷康	日本における農業協同組合の成り立ちと農業組織の役割。農協と農民および地域の関わり方を講義する。
参加型手法	0.5	0.5			帯広畜産大学 教授 門平睦代	農民が主体的に動き出すためには参加型手法の活用が欠かせない。代表的手法を習得するために、さまざまな事例を紹介し、実際にグループに分かれて実習を行う。
研修総括		0.5			帯広畜産大学 教授 門平睦代 水戸部洋二	これまで学んできたことについて総括し、参加者全員で討論し、研修員各自がユニークなカリキュラムを作成するために必要なアイデアを生み出す一助とする。
カリキュラム作成準備		2.0			帯広畜産大学 教授 門平睦代 帯広畜産大学 講師 グレン・ヒル	研修員各自が自らのカリキュラムを作成し、発表会に向けて準備を行う。門平はカリキュラム内容、グレン・ヒルはプレゼンテーション技術についてそれぞれ指導する。
小計	3.0	3.0	1.0	0.5		
単元目標2: 基礎科学をまなび、応用化学との関係が説明できる。						
科目	講義	実習	視察	討論	担当	講義内容
作物の生長と生理的特性	0.5	0.5			帯広畜産大学 准教授 秋本正博	午前作物の生長と生理的な特徴に関する講義。午後は大学の実験室で作物の根が試験などの基礎的項目について実習する。
基礎科学(生物)	0.5	0.5			帯広畜産大学 准教授 小嶋道之	ヒトは何故食べるのか? ヒトは何を食べるのか?などを中心に講義・実習する。
基礎科学(測定)	0.5	0.5			帯広畜産大学 准教授 紺野康夫	農業分野における物理量の測定方法とデータ処理の基礎を講義する。また、各種測定方法について実習する。
十勝の農業と土壌、土壌診断の方法	0.5	0.5			帯広畜産大学 教授 筒木潔	午前中は土壌診断に関する講義。午後は大学の研究室で、土壌分析、などの基礎的項目について実習する。
小計	2.0	2.0	0.0	0.0		
単元目標3: 地域開発における農業畜産の意義について説明できる。						
科目	講義	実習	視察	討論	担当	講義内容
JAと地域開発	0.5				太田 助	士幌町農業協同組合職員として、士幌町の農業発展に寄与した経験から、農業技術普及における難しさ、地域の農業技術の向上にむけた創意工夫を紹介し、研修員と意見交換を行う。
経営教育と経営論	0.5	0.5			インサイトマネジメント株式会社・代表取締役 坪井真一	農業経営において必要となる経営の概念を紹介し、牛井屋経営シミュレーションなどのロールプレイを通じて、経営論を学ぶ。また、実際に自家生産から商品開発・販売までを行っている農家を訪問し、経営の現場を視察する。
十勝農業改良普及センター視察			1.0		十勝農業改良普及センター北部支所	農業改良普及の現場に訪問し、普及員の実際の活動に触れる。農業改良普及の成功事例や、他ステークホルダーとの協力体制を紹介する。
士幌町農業の歴史と現状(畜産を中心として)	0.5				士幌町農業協同組合畜産部次長 西田康一	士幌町は農業を基幹産業として発展し、現在でも農業が地域の社会経済を支えている。士幌町農業の発展の歴史と、それに果たした役割を農業協同組合の視点から紹介する。
士幌町農業協同組合関係施設の見学			0.5		士幌町農業協同組合畜産部次長 西田康一	士幌町農業協同組合では組合員の出資を基盤として、農産物に付加価値をつけるべく加工・販売を行っており、その関係施設を訪問する。
士幌高校(歴史と教育内容)			0.5		士幌高等学校	町立の農業高等学校として発足した経緯を紹介。地域としての農業への姿勢、その一連の流れの中で、若手人材育成を担ってきた同校の取組を紹介する。
地域特産品の活用		0.5			三浦たみ子	地域で生産される食材を使った料理を実際に体験することで、農業の重要性を身近に感じる。
よつ葉乳業株式会社十勝主管工場視察			0.5		十勝主管工場総務課 越智浩二	発足にあたって、酪農家自身が出資し、生産から流通まで一体となって取り組んでいくことを目標とした同工場を視察。士幌町で生産された生乳はこの工場では処理されている。
小計	1.5	1.0	2.5	0.0		
単元目標4: 帰国後の農民主導による普及活動の計画を纏めた活動計画が作成される。						
科目	講義	実習	視察	討論	担当	講義内容
アクションプランの作成	0.5	0.5			帯広畜産大学 講師 グレンヒル	アクションプランの作成の手順、およびパワーポイントを活用したわかりやすいプレゼンテーションの手法について紹介する。
アクションプランの作成指導		1.0			帯広畜産大学 教授 門平睦代	研修員が纏めた農民主導による農業技術普及を実践するための具体的な帰国後の活動計画について、コースリーダーから助言を行う。
アクションプラン発表会			1.0		帯広畜産大学 教授 門平睦代	研修員全員が、研修期間中に纏めた帰国後の活動計画を、コースリーダー、各講師に対してプレゼンテーションで発表する。
小計	0.5	1.5	1.0	0.0		
合計	7.0	7.5	4.5	0.5		

研修日程(案)

日付	時刻	形態	研修内容	講師又は見学先担当者等	研修場所
1/14(火)			来日		
1/15(水)	9:30 ~ 12:00	講義	ブリーフィング	加藤 宏紀	JICA北海道(帯広)
	13:00 ~ 14:15	講義	ブリーフィング		JICA帯広OR
	14:30 ~ 16:30	講義	オリエンテーション(政治・行政機構)	マーシャル・スミス	帯広畜産大学 准教授
	18:00 ~ 19:30	講義	日本語研修	和田 道子	JICA帯広SR4
1/16(木)	9:30 ~ 11:30	講義	オリエンテーション(経済)	川田 章博	川田工業(株)代表取締役
	13:00 ~ 15:00	講義	オリエンテーション(教育)	時岡 裕純	帯広畜産大学 教授
	15:30 ~ 17:00	講義	ブリーフィング(森の交流館・図書館等)	加藤 宏紀	JICA北海道(帯広)
	18:00 ~ 19:30	講義	日本語研修	和田 道子	JICA帯広SR4
1/17(金)	13:00 ~ 17:00	発表	I/R発表会リハーサル	加藤 宏紀	JICA北海道(帯広)
	18:00 ~ 19:30	講義	日本語研修	和田 道子	JICA帯広SR4
1/18(土)					
1/19(日)					
1/20(月)	9:15 ~ 9:45		市長表敬	柏木 琴美	帯広市役所 親善交流課
	13:30 ~ 14:30	講義	コースオリエンテーション	門平睦代	帯広畜産大学
	14:30 ~ 17:00	発表	インセプションレポート発表会	門平睦代 水戸部洋二	帯広畜産大学 元帯広農業高等学校長
1/21(火)	9:00 ~ 12:00	見学	帯広農業高等学校視察	織井恒	帯広農業高等学校 教諭
	13:00 ~ 16:00	見学	帯広農業高等学校視察	水戸部洋二	元帯広農業高等学校長
1/22(水)	9:00 ~ 12:00	講義	農民学校	門平睦代	帯広畜産大学
	13:00 ~ 16:00	講義	農業教育カリキュラム	水戸部洋二	元帯広農業高等学校長
1/23(木)	9:00 ~ 12:00	講義	日本における農業協同組合 組織と役割	石山参事	JA川西 参事
	13:00 ~ 16:00	講義	アクションプランの作成	グレンヒル	帯広畜産大学
1/24(金)	10:00 ~ 11:30	見学	よつ葉乳業株式会社十勝主管工場視察		よつ葉乳業十勝主管工場
	13:00 ~ 16:00	講義	JAと地域開発	太田助	元士幌農業協同組合専務理事
1/25(土)					
1/26(日)					
1/27(月)	9:00 ~ 12:00	講義	基礎科学	紺野康夫	帯広畜産大学
	13:00 ~ 16:00	実習	基礎科学	紺野康夫	帯広畜産大学
1/28(火)	9:00 ~ 12:00	講義	基礎科学	秋本正博	帯広畜産大学
	13:00 ~ 16:00	実習	基礎科学	秋本正博	帯広畜産大学
1/29(水)	9:00 ~ 12:00	講義	基礎科学	筒木潔	帯広畜産大学
	13:00 ~ 16:00	実習	基礎科学	筒木潔	帯広畜産大学
1/30(木)	9:00 ~ 12:00	講義	基礎科学	小嶋道之	帯広畜産大学
	13:00 ~ 16:00	実習	基礎科学	小嶋道之	帯広畜産大学
1/31(金)	9:00 ~ 12:00	見学	士幌高校訪問	未定	士幌高校
	13:00 ~ 16:00	見学	士幌町農業の歴史/施設見学	西田康一	士幌町農業協同組合畜産部長
2/1(土)					
2/2(日)					
2/3(月)	9:00 ~ 12:00	講義	経営教育と経営論	坪井真一	インサイトマネジメント株式会社 代表取締役
	13:00 ~ 16:00	実習	経営教育と経営論(実習)	坪井真一	インサイトマネジメント株式会社 代表取締役
2/4(火)	9:00 ~ 12:00	見学	経営教育と経営論(自家生産から商品開発・販売まで)	広瀬彦彦 水戸部洋二	リバティヒル広瀬牧場ウエモンズハート 代表 元帯広農業高等学校長
	13:00 ~ 16:00	講義	農業教育カリキュラム	水戸部洋二 三浦タミ子	元帯広農業高等学校長 元士幌高校教諭
2/5(水)	9:00 ~ 12:00	講義	参加型手法	門平睦代	帯広畜産大学
	13:00 ~ 15:30	講義	参加型手法	門平睦代	帯広畜産大学
	15:40 ~ 16:00	講義	畜産フィールド科学センター	門平睦代	帯広畜産大学
2/6(木)	9:00 ~ 12:00	実習	地域特産品の活用	三浦タミ子	元士幌高校教諭
	13:00 ~ 16:00	見学	百年記念館	水戸部洋二	元帯広農業高等学校長
2/7(金)	9:00 ~ 12:00	見学	十勝農業改良普及センター北部支所	岩谷豊	十勝農業改良普及センター北部支所長
	13:00 ~ 16:00	講義	十勝農業改良普及センター北部支所	岩谷豊	十勝農業改良普及センター北部支所長
2/8(土)					
2/9(日)					
2/10(月)	9:00 ~ 10:00	講義	研修総括	水戸部洋二	元帯広農業高等学校長
	10:00 ~ 12:00	実習	アクションプラン作成	グレンヒル	帯広畜産大学
	13:00 ~ 16:00	実習	発表練習	門平睦代	帯広畜産大学
2/11(火)	9:00 ~ 12:00	実習	カリキュラム作成準備	門平睦代	帯広畜産大学
	13:00 ~ 16:00	実習	カリキュラム作成準備	門平睦代	帯広畜産大学
2/12(水)	9:00 ~ 12:00	実習	カリキュラム作成準備	グレンヒル	帯広畜産大学
	13:30 ~ 14:30		評価会	門平睦代	帯広畜産大学
	14:30 ~ 17:00	発表	アクションプラン発表会		JICA帯広OR
	17:00 ~ 17:30		閉講式	門平睦代	帯広畜産大学
	17:30 ~ 18:30		閉講パーティー	水戸部洋二	元帯広農業高等学校長
2/13(木)			帰国		

年度別受入実績表

1. 応募／選定（受入）人数

	平成24年度(A)	平成24年度(B)	平成25年度(A)	平成25年度(B)	累計
応募数	15名	14名	14名	16名	59名
受入数	12名	14名	14名	13名	53名

2. 国別受入人数

○男性 ●女性

国名	平成24年度(A)	平成24年度(B)	平成25年度(A)	平成25年度(B)	累計
アフガニスタン	○	○○ (C/P2名)	○○		5名
ベナン	○○			○○	4名
エジプト	●				1名
エチオピア		○		○○	3名
ガーナ		○○○	○○○		6名
ギニア		○		○	2名
ケニア				○	1名
コソボ				●	1名
マラウイ	○○●		○○●		6名
モザンビーク		○○		○	3名
ミャンマー	○●●		○●●		6名
ナイジェリア	○○ (内1名C/P)			○● (内1名C/P)	4名
スワジランド		○●			2名
タンザニア		○		○	2名
ザンビア		○○		○●	4名
ブルキナ ファソ			○		1名
カンボジア			○		1名
タジキスタン			○		1名
合計	6カ国 12名	8カ国 14名	7カ国 14名	9カ国 13名	30カ国 53名



独立行政法人 国際協力機構 北海道国際センター（帯広）
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2
TEL : 0155-35-1210 FAX : 0155-35-1250
ホームページ : www.jica.go.jp/obihiro/
メール : jicaobic@jica.go.jp